淺野造船所に殘る一問題

5.9 横公

解職手當の支拂ひは昨日無事に濟んだが積立金は如何なる

淺野造船所では八日午前九時解職手當及養老積立金を職工にそれぞれ渡した種々な噂があつたので所轄鶴見分署では万一を慮り大川分署長を始め刑事が警戒につとめたが何等の

事故もなく午前十一時無事終了した當日渡した金は解職手當が四十一万七千圓養老積立金六万四千圓であつた尚問題の工友會の積立金は當日は渡さなかつたが會社側ではこれは渡すべきものでないと主張してゐるし職工側は是非とも渡して貰はねばならぬとで中々納まらず役付職工は午前十一時會社正門前に集合種々協議の末會社に對し強硬談判を開始する事に決し七名の委員を擧げ嚴談を試みた處石原庶務課長は

工友會は會社が事務を取扱つて居るのではないから同會長安藤技師に交渉されたいと突き放したので安藤技師を呼び職工と會見種々協議する處があつたが何等纏まらず引續き嚴談する筈であるが解決の如何に依つては紛擾を見るであらう

會社前で示威運動

基金支給問題再度の交渉

別項の馘首職工が工友會の基金六万餘圓請求に關し會社側ではこの六万圓なるものを分配する意志無くその請求には應じ難しと跳ね付け代表員等を一先ず歸宅せしめたるが職工側は尚は今九日午前九時再び會社に代表員を派して強硬なる談判を開始する筈にて此間全職工團は代表員の氣勢を擧ぐべく大擧會社正門に押寄せ勢揃ひを爲すとの事にて鶴見分署にては萬一を慮り各署の應援を得て嚴重警戒すると

職工續々押寄す

淺野造船では積立金拂戻を拒絶

淺野造船所の馘首職工は代表七名を選んで工友會積立金拂戻しを請求すべく九日午後一時半工友會長安藤技師長と會見したが會社側は同會則中の積立金は如何なる理由あるも絶對に拂戻さずと云ふ條件を前に要求を拒絶するらしい、因に積立金は基本金として社長が寄付せる五百圓[illegible]

せる一萬百圓五十四錢大正六年開業當時の積立金一千六百十三圓十四錢である會社側が要求を絶對に拒絶すれば職工は不穩の態度に出づべく目下職工等は續々淺野造船所前門に押寄せつゝある（横濱電話）

急病やら

端た金などは會社へ寄附する

積立金割戻しを—淺野造船工受取らず

積立金の割戻し要求日と云ふので注意を引いたが、九日午後一時淺野造船所の門前には解雇職工側の代表者小林駒次外五名を先頭に百餘名が現はれ、總て三十分程してから代表者と安藤重役との會見が會社の一室で始まり委員が開き直つて例の要求を持ち出せば、安藤重役は

強硬な態度で「工友會の積立金は要するに職工救濟の基本金で從來それより生ずる利子だけが運用されて居たもので、規定にある通り會社の存續する限り此分配は絶對に出來ぬ、併し現在の總額中から淺野社長の寄附された五萬圓と社員一同からの一萬三百圓の資金が生んだ千五百三十七圓六十八錢は此際拂戻しても良い」と告げた、斯くて

會見は、約一時間で終り門前に待居る職工等に對し其旨太田代表から報告すれば、議論百出一時喧囂を極めたが結局それ許りの端た金を貰つた所で一人の頭に割當るとやつと一圓二十錢内外の

解散したが、職工側の氣勢は豫期の通り甚だ振はず穩かだつたので、取締の眼を光らして居た警官隊も手持ち無沙汰の體で引上た（横濱九日電話）

積立金の分配を態よく拒絶

淺野造船の解雇職工 會社の處置を憤慨

淺野造船所解雇職工の工友會積み立て金分配問題につき職工側代表佐々木治重外五名は九日午後一時半會社に出頭重役會議室で安藤會長と會見し前日の回答を求めた所工友會の財産は現在六萬三千八百廿七圓六十八錢あるがその内社長の寄付金五萬圓を重役及び社員の寄付金一萬三百圓計六萬三百圓は會則通り

會社の所有する以上絶對に分配するとは出來ない然し基本金の利子一千八百五十四圓五十四錢並びに創立記念として職工の積み立てた千六百七十圓四十四錢計三千五百廿七圓六十八錢は理由によつて分配しないともないが目下就職中の製鋲工全部の同意を得た上でなければ

駄目だ要するに工友會の基金は諸君の積み立て金でないからそこをよく考へてもらひたいと拒絶したので代表者六名は同二時半本社正門前の集合所に引揚げこれを報告すると午前中から待ちくたびれてゐた解雇職工約三百名は會社の橫暴を罵り不穩の形勢が見えたが何事も

起らず同三時半無事に解散した職工の一人は「會社は基金の利子と創立記念積み立て金三千五百餘圓を分配してもよいといふがそれは千八百の職工だから一人當り二圓足らずの端した金で何の役にも立たない人を馬鹿にした話しだ」と憤慨してゐた